

労災疾病等医学研究普及サイトの御案内
「早期復職」について

○現在、がんはわが国における死因のトップであり、2～3人に1人は生涯の間のがんと診断されます。また、がんと診断された方の3人に1人は就労可能な年齢でがんと診断されており、がんと診断された後も仕事を続ける勤労者は、今後増えることが予想されています。

○がん患者さんが復職するために最も重要なことは、体力の維持・増進とされており、そのためには「運動療法」と「食事療法」が効果的であると考えられています。

○平成30年7月から開始した本研究(「消化器癌(食道癌、胃癌、大腸癌)手術患者における蛋白質の補充と運動療法が骨格筋の増加に及ぼす影響に関する研究」)は、がん治療のために手術を受ける患者さんを対象として、持久力や筋力を強化する「運動療法」と、最適な蛋白質を摂取する「食事療法」を手術前から一定期間実施します。退院後9週目まで血液検査や体力測定等を行うとともに、復職の状況を調査します。

○復職を目指すがん患者さんに対して、「運動療法」と「栄養療法」を行い、持久力や筋力の効率的な改善ができれば、患者さんの早期復職とキャリア維持および職業生活の維持に大きく寄与することができると考えています。

○中間報告として、令和4年6月までに予定登録数の50症例を収集し、統計解析を実施しています。令和5年度中に研究成果を取りまとめる予定です。

○本研究の詳細については、「労災疾病等医学研究普及サイト」をご覧ください。

→<https://www.research.johas.go.jp/souki2018/index.html>